

2004年度第8回 常任幹事会議事録

●日時
2005年5月21日(土)
15:00~17:00

●場所
阿佐ヶ谷美術専門学校 521号室

●出席幹事

秋元圭一 [会長]
甲斐光省 [副会長] : 途中参加
大村政幸 [常任]
浜村圭一 [常任]
小山 弘 [常任]
勝山昌幸 [常任]
角谷祥子 [常任]

●委任欠席(カッコ内→代理人)

西田一成
目須田修 (→西田氏)
菊池 満
渡部征明
西谷之男
松岡和彦 (→小山氏)
三浦嘉久
川島昭作 (→西田氏)
岸 明美
藤原成理

常任出席者 7名
委任欠席者 10名
定足数成立

●議事進行
議長・進行: 小山 弘

●議事録
書記: 大村政幸
校正・制作・文責:
秋元圭一・小山 弘・角谷祥子

■議題
議題1
活動計画と予算について

議題2
その他(選挙方法・会則検討・アサビアワードなど)

議題1/活動計画と予算について

秋元会長は、2004年度決算・2005年度予算報告書の項目確認をしながら「2004年度は前年より入学者が少なかった。打合せ時に余分に払ってくれた金額を雑収入として計上。同窓会ニュースは『あさしん』に同封の形ではなかったので事務局の予算より支出。正式文書では項目分けが変わるが総額は変わらない」と付け加え、**6月中の監査後に幹事へ報告及び承認確認をする**という予定を伝えた。

議題2/その他(選挙方法・会則検討・アサビアワードなど)

●選挙方法

秋元会長から「前回提出した試案に対する意見がなかったので、次回会議に私の考えを具体化した書式で提出するので、その次の会議までに意見及び他の案を提示してもらい、**9月には最終案を出す**という方法を取り、**1月中旬には被選挙人のプロフィールを添えて幹事宛に提示したい**。学校のコース分けが以前と違っている為、各学年の幹事選出の方法が問題になってくると思う」との提案に、「(勝山)メールが普及した現在、連絡幹事の役割も変わってくると思うので、今までとは違う幹事選出方法も模索できると思うし、クラスの垣根も取れるのではないだろうか」「(浜村)ネット上での選挙も可能になるのではないだろうか」等の意見が出ると、秋元会長は「立候補者が出た場合はモチベーションを尊重してなるべく取り込んでいきたい。同窓会への参加の枝葉が広がり、同窓生の個々の活動等と連携できるようになると良い」と締めた。

●アサビアワード

実行委員長の勝山氏から「最初は敷居を低くしてでも実績を作りノウハウを固めていきたい。また、賞をあげるタイミングが決まればスケジュールも組み易い」と述べ、候補者の選出方法として以下の3つが提案された。

- 1.『あさしん』のトップページで紹介された方
- 2.公募展から
- 3.幹事会等からの推薦

実行するにあたっての問題点として

- 1.定期的に賞をあげるとしても事務処理に追われて気持ちが萎えてしまうという恐れ。
- 2.公募展の場合、チェックや、実際足を運んで見に行けるかどうか。
- 3.土台作りまでの過程を担う人への負担。
- 4.良い案が出て本業が忙しければ時間が取れずに立ち消えるのではという懸念。

などが上げられ意見交換に入った。

「(角谷)納得のいかない選出になるよりは、展覧会などで何かやろうとしている人への援助をする事で、公募展などへの方向性をつけて行きたい」

「(甲斐)アサビアワードとして予算が取れているのであれば実行してもいいと思う。ビジョンズを借りて何か開催して賞をあげてはどうか」

「(浜村)展覧会等をやろうとする場合は先ず箱を考えるので、その方が現実的で飛びつき易いと思う」等の意見が上がった。

秋元会長が『あさしん』で取上げられた人や個人活動の人を自薦他薦でホームページにあげて、1つの土俵の中からアサビアワードとして賞をあげる形ではどうか。また、別の考え方として、敷居を低くする意味で、たとえばハガキ大のスペースを1人分として、テーマを決め参加を募り展示会をやって、公募展の足掛かりにする方法もある」との提案に皆が賛成し、小山氏発言の、展示物の管理を考えてFAXによるA4白黒作品の展示会という案に落ち着き、今回は事務局扱いの予算立てとしておき、『**第2回アサビアワード・FAX展**』として具体化する方向となった。(詳細は別紙参照)

次回日程:

2005年6月25日(土)15:00~の2005年度第1回幹事会日時の確認をして議会は閉会した。

参考:アサビアワード検討の詳細

実行委員会の勝山氏が「現時点で吸い上げる方法として、1・『あさしん』との連携、2・公募展、3・幹事会等からの推薦という3つの方法が出ている。賞をあげるタイミングが決まればスケジュールも組み易い」と述べ、意見交換となった。

「(小山) 年内に一度開催することは決まっている」

「(角谷) 賞をあげる為にやるわけでもないと思うので、4年に一回の総会&パーティでいいのではないかと」

「(勝山) 4年に一回だと止まってしまう可能性がある。まずは推薦でいいと思う」

「(角谷) 4年に一回にすれば賞の質が上げられる。その選抜までの間に展示会等を何度かできるのではないかと」

「(勝山) イメージとして、4年に一回がグランドチャンピオンというのはいかがか」

「(角谷) 常任会議で推薦された人達だけに還元されるのは変だと思う、他の案として、展示会を行う人達へのバックアップという形はどうだろうか。その人達がPRしてくれる事で活性化にも繋がると思う。4年に一回グランドチャンピオンといっても、年に一回選ばれた人がもう一回貰う事にもなりかねないし、その理由もわからない。展示会へのバックアップなら、自分もやって貰いたいという人も出てくると思う」

「(秋元) バックアップならネットワークは広がり易いと思う」

「(勝山) 集まりすぎても収拾がつかなくなる」

「(浜村) 公平にやるなら公募が良い。参加もし易いだろうし、阿佐美以外の参加も出てくるのではないかと」

「(秋元) 初めに予算を組んで何組かに割り振り、様子を見てはどうか」

「(角谷) ホームページで募ってみてはどうか」

「(秋元) 参加しようとした時には満杯だったという状況も考えられるので、仕組みが出来るまでは、展示会への協賛などの形で一度やってみてもいいと思う。また、告知だけしておき、協力の目安として過去に行った写真などを送ってもらう方法も考えられる」

「(勝山) 公募するにしても、情報が行き渡らないと集まらないという問題もある」

「(秋元) 公募展の手前で、展示会への協賛などで裾野を広げておかないと、いきなり作品は集まらないと思う」

「(勝山) 裾野を固めるのは大事だと思う。公募展を先に置いたとして、順序をどうしたものかと考えている」

「(小山) 確かに、定期的に賞を上げられたとしても事務処理で気持ちが萎えてしまうという恐れもある。『あさしん』に取上げられている方達は同窓生であるし、推薦で一度実行して次に繋げたいと、アサビアワード実行委員の中で話していた」

「(角谷) でもそうすると次の実行委員の人がまたゼロから考えなければいけなくなり、例えば、じゃあまた『あさしん』からとなったとして、貰う方はうれしいのかなと私はいつも疑問に思う。展示会への協賛なら裾野は広がると思うが、個人への単発的なイベントでは先の展開がない気がする」

「(小山) 公募展の場合、チェックの問題があり、実際見に行けるかの問題も出てくる」

「(角谷) 公募展はまだ先の話で、活動している方達への協賛が浸透し、その中から例えばじゃあ賞をあげようかといった、土台づくりが大事だと思う。協賛を受けたい人が出てくれば同窓会に関わるきっかけにもなり、活性化に繋がる」

「(甲斐) 展示会をしている人達の情報集めも大変だと思う」

「(角谷) 最初は難しいと思うが、協賛の情報などが広がれば、手をあげてくれる数も増えていくと思う」

「(小山) 土台作りまでの過程を担う人材の事を懸念してしまう状況である」

「(秋元) 勝山氏をはじめとする今の実行委員が考えているのは、実作業が重くなりかねない為、とにかく1つ形を残したいという所だと思う」

「(角谷) 私が思うのは、アサビアワードで納得のいかない選出になるよりは、展示会などで何かやろうとしている人への援助をする事で、公募展などへの方向性をつけて行きたいという事なんですね」

「(秋元) 前回の総会&パーティでは同窓会の活性化の為にアサビアワードというきっかけを実行した経緯がある。今年一年は協賛の形という事で活動予定のある人を募り、その中から盾などの賞をあげる形はとっていけるかもしれない。そういうのを積重ねていく中で目指す形が見えてくると思う」

「(角谷) メジャーな人を推薦するのも活性化に繋がるとは思うが、活動への協賛の方が一般の人の参加が増えると思う」

「(甲斐) アサビアワードとして予算が取れているのであれば実行してもいいと思う」

「(秋元) 本来であれば同窓生・在校生支援委員会としての予算が妥当かもしれないが、今回はまだ中身が決っていないので、事務局扱いで予算立てしておきたいと思えます。数字的にはどうでしょうか」

「(甲斐) ビジョンズを借りて何か開催して賞をあげてはどうか」

「(浜村) その方が現実的な気がする」

「(角谷) 作品は集まるのか？まだ、時期尚早という気がする」

「(浜村) 展示会等をやろうとする場合はまず箱を考えるので、今の話の方が飛びつき易いと思う」

「(角谷) ジャンルも決めた方がいいのでは？」

「(勝山) 同窓会がいかに役に立つかという観点から、展示会等への資金援助と活動情報の活性という2つの切口が必要で、そこにアサビアワードを置き、存在を見せると同時に協賛や公募なりへの入口になれば、その為の場所がまずは必要」

「(角谷) 打上花火的なものは総会&パーティでいいと思う、普段の地道な活動はコンスタントに行わないといけない、誰かに賞をあげる事があるとしたら4年に一回でいいのではないかと」

「(勝山) 賞は結果だから、先に賞があるというもおかしい話ではある」

「(小山) いい案が出て実作業の部分で時間が取れず立ち消える懸念がある、実際僕も本業が忙しくなり、同窓会へかけられる時間が減っているの、実行委員としては、最初は敷居を低くしてでも実績を作りノウハウを固めていきたい」

「(角谷) それが実績になっているか疑問」

「(小山) 『事実』にはなっているが『実績』かどうかは確かに疑問が残る」

「(秋元) 『あさしん』で取上げられた人や個人活動の人を、自薦他薦でホームページにあげて、1つの土俵の中からアサビアワードとして賞をあげる形ではどうか。最初はやらせになるかもしれないが、次回からは本当に手をあげて参加してくれる人の数とさくらの数が逆転していくかもしれない」

「(角谷) それなら納得できる」

「(秋元) 9月の同窓会ニュースに、大まかな告知はできるようにしたい」

「(小山) 作品を募集しても時間がなくて集まらなければ仕方がないという事で、何か敷居を低くする手段はないか？」

「(秋元) ハガキ大のスペースで、たとえばテーマを『氏名』とかと決めてみるのもいいのではないかと」

「(浜村) 見に来てくれた人の投票にして公平性を保つ事も出来る」

「(秋元) 敷居を低くする意味で、全て展示して審査なしという形もいいと思う」

「(大村) 展示期間内に持ち込みも出来るというのも面白いのでは」

等の意見後、展示物の管理を考えて、小山氏発言のFAXによるA4の白黒作品の展示会という案に落ち着き

「(浜村) それなら展示中もFAXで受け付けられて面白いのでは」

等の意見で、『第2回アサビアワード・FAX展』を具体的に進める事となった。